

対面授業での遠隔情報保障の活用

対面で行われる授業では、感染防止の対策を十分に講じることが求められています。聴覚障害学生が授業に参加する際の従来の情報保障支援は、複数人の人員を配置する、隣席で支援する、支援機器を共有するといった特性上、感染対策の観点から実施が難しくなる可能性があります。このような場合、「支援の提供」と「感染対策」を両立させる方策として、オンライン授業で実施するような遠隔情報保障の方法を活用することができます。

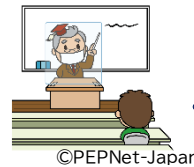


©PEPNet-Japan

遠隔での情報保障支援であれば、支援を利用する学生のとりに支援者が座る必要がなく、適切に運用することで対面での支援と同等の情報保障支援を提供することが可能になります。

対面授業の支援を遠隔地から行う場合には、以下のようにいくつかの実施パターンが想定されます。

1. 支援者が各自宅から支援
2. 支援者が学内の別室から支援
3. 支援者が同じ教室内の離れた席から支援



©PEPNet-Japan



©PEPNet-Japan

■授業音声の送受信について

オンライン授業であれば、支援者もオンライン授業に入室することで、授業の映像・音声にアクセスできました。しかし上記の3つのパターンのうち、支援者が教室内にいない1や2のパターンの場合には、何らかの形で、授業音声を支援者に送る方法や、授業資料の提供の方法を講じる必要があります。

[例]支援者が自宅や別室から支援する場合

- ・テレビ会議システムを繋いで教室の音声・映像を支援者が見られるようにする
- ・電話回線の通話等で授業音声を支援者に送る
- ・遠隔情報保障のシステムに含まれるカメラやマイク機能を使って、授業音声・映像を支援者に送る、など

■遠隔情報保障の手段について

遠隔地からの支援では、何らかのシステムを活用してパソコンノートテイクや手話通訳が行えるほか、機器の準備ができれば手書きノートテイクの実施も可能です。利用するシステムの検討や機器の接続方法については、オンライン授業における情報保障支援の各コンテンツを参照してください。

参考になるコンテンツ

- ・T-TAC Caption を使った遠隔文字通訳
<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/144>

- ・ノート共有アプリを利用した手書きノートテイク
<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/201>

- ・テレビ会議システムを利用した手書きノートテイク
<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/211>

- ・音声認識字幕を遠隔地から修正する方法(UDトーク接続編)
<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/231>

- ・オンライン授業における遠隔手話通訳
<https://www.pepnet-j.org/contents/archives/256>

- 発行日：2021年9月20日
- 更新日：2022年5月2日
- 編集：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)事務局
- 発行：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター
〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15 TEL/FAX 029-858-9438
 E-mail:pepj-info@pepnet-j.org URL <https://www.pepnet-j.org>

※本事業は、筑波技術大学「聴覚障害学生支援・大学間
 コラボレーションスキーム構築事業」の活動の一部です。



国立大学法人
筑波技術大学

PEPNet-Japan